

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	問題解決技術実習	1	45	3 年次	5 月	市場美織
<p><b>実習概要</b></p> <p>看護に必要な問題解決技法としての看護過程を展開できる基礎的能力を身につけることを目的とする。1 年次に行った日常生活援助技術実習では、対象の基本的ニードから援助の必要性を考え、対象に応じた原理原則に基づいた日常生活援助技術を実践した。実習では、ロイの適応理論を用いて、問題解決過程を学習する。</p>						
<p><b>科目目標</b></p> <p>対象の行動と適応状況に関する情報を収集し、アセスメントができる。看護師が介入する看護問題を診断し、その優先順位を明確にできる。看護介入によって、対象に期待される適応行動への変化を目標として設定し、個別性を考慮した看護計画を立案できる。看護計画にそって看護を実践し、評価ができる。</p>						

### 実習計画

実習場所・時間	内容及び方法
<p>NHO 熊本医療センター 5 西 5 南 6 東 6 西 6 南 6 北 7 東 7 西 7 北 病棟のうち 1 か所 45 時間</p>	<p>1 人の対象を受け持ち、ロイの適応理論を用いて、以下のプロセスを通し、問題解決過程を学習する。</p> <p>まず、対象の行動と適応状況に関する情報をロイの 4 つの適応様式に基いて収集し、適応行動か非効果的行動かを判断する。次に、対象を理解するために気になる行動を分析・統合し、その行動に影響を及ぼしている内的・外的刺激を明らかにする。そして、看護師が介入する看護問題を診断し、その優先順位を明確化する。看護診断は、NANDA - I の看護診断を用いて診断する。</p> <p>看護介入によって、対象の期待される適応行動への変化を目標として設定し、個別性を考慮した看護計画を立案する。看護計画にそって看護を実践し、評価を行う。</p> <p>日々の看護実践は前日までの対象の状態及び援助に対する反応を情報として、本日の達成可能な看護目標を設定する。目的を持って行い、実施中・後の対象の変化や反応を観察・記録し、看護の評価を行いながら実施する。</p>
備考	